

“知られざる”

新聞人・ジャーナリスト・言論人

初見参!  
ういげんざん

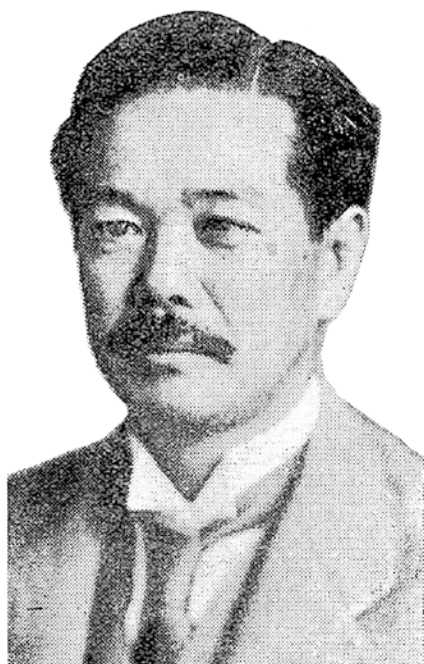
戦後80年・昭和100年

いま読む時が訪れた。

戦争・国家・軍縮・不況・資本主義・食糧・農業・国策・権益・官僚・民営化・選挙・  
反権力・男女・合理化・労働・格差・教育・皇国・宗教・信仰・医療・社会事業

その“火を噴く”言説に現代日本への警鐘を聴く!

# 反骨の新聞人 長谷川善治



はせがわ・ぜんじ  
(1888・明治21～1941・昭和16)

長谷川 匡俊 著  
まさとし

大乗淑徳学園理事長・淑徳大学名誉教授

◆不正を暴き、不合理を非難し、国策を論じ、国民を鼓舞し、弱者・大衆のための社会建設に向け、紙上でペンを、壇上で熱弁を振るい、行動実践した熱血の「新聞人」が、いま初めて姿を現わした。

●萬朝報社社長 昭和3～11年

この間数度の“発売禁止”を受ける。

◆その舌鋒の矛先は、100年前の世界でありながら、現代日本と日本人へ向けた言説かと思まがうほど、鋭く、具体的に傾聴に値する提言に満ちている。

\*日本近現代史・ジャーナリズム史

新たな1ページが加わる!

昭和初年『萬朝報』での言説と行動

最新刊 8月

萬朝報

よろずちようほう

(創刊)1892・明治25～1940・昭和15(廃刊)

学術資料出版

発行

大空社出版

www.ozorasha.co.jp



## 反骨の新聞人 長谷川善治 昭和初年『萬朝報』での言説と行動

長谷川匡俊 著

[大空社出版 2025年8月刊]

A5 判・並製・198 頁・カバー  
ISBN 978-4-86688-243-7

定価(本体 2,200円 + 税)

### ●関連書●

\* 詳細は大空社出版へ

シリーズ 福祉に生きる \*本体 2,000 円

24 長谷川良信〈長谷川匡俊著〉

69 長谷川りつ子 / 長谷川よし子  
〈米村美奈著〉

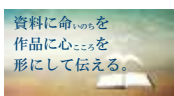
輪島聞声事典 わじまもんじょう・じてん

〈米村美奈・割田剛雄編著〉 \*本体 2,500 円

黒岩涙香の研究と書誌 ★残数冊

〈伊藤秀雄・榊原貴教編〉 \*本体 5,500 円

学術資料出版



# 大空社出版

www.ozorasha.co.jp

eigyo@ozorasha.co.jp

TEL:042-306-3383 FAX:042-306-3384

〒189-0001

東京都東村山市秋津町 5-24-13-101

## 徹底した「闘争」の生涯

一人の歴史上の人物として惹かれる善治 序・刊行にあたって(抄)

本書の主人公・長谷川善治は著者の父(長谷川良信一九六〇、社会事業家・教育者・淑徳大学創立者)方の叔父にあたる。残念なことに、私の誕生に先だつ二年前の

一九四一年(昭和一六)二月に五四歳で没している。わが国が太平洋戦争に突入する前夜の事だ。生前の善治について、私の父はほとんど私に語っていない。すでに亡くなっていたからとも思えるが、元来父良信は、幼くして長谷川家を出て、茨城県真壁郡の浄土宗得生寺に養子として入籍し、僧侶(出家)の身の上となったからか、自分の両親や家族・親族のことをあまり語るほうではなかった。

それ故に著者にとって長谷川善治は、叔父とはいえ、いわば縁遠い人ではなかった。ところから、今からおよそ十二、三年前のこと、ふとしたきっかけから善治の自叙伝『小説 発売禁止』(忠誠館書店、一九二六年一〇月)を手にとることとなったのである。読み進めるにともない、その書名からも想起される破天荒な言動の数々には驚かされることばかりで、興味は尽きなかった。また

一方で、善治(四男)の弟良信(五男)をはじめ長谷川家の家族とその周辺事情、善治と良信の影響関係に関しても貴重な情報を得ることができた。この二人の関係は、一九二八年(昭和三)一二月、善治が「萬朝報社」の社長に就任すると、仕事の上でも一層深まりを見せることになる。

本年二〇二五年は「戦後八〇(昭和一〇〇年)」の年に当たる。(…)現代日本の状況を戦争に対する危機意識という視点から、歴史の鑑に照らして、本書が対象とする一九三〇年代の善治の言説と行動を観察するとき、教訓とすべきことがらは少なくないのではないかと考える。

著者 長谷川匡俊 はせがわ・まさとし

1943 年生まれ。専攻：日本仏教史、日本社会福祉史、仏教福祉。現在、大乗淑徳学園理事長、淑徳大学名誉教授。[主な著書]『長谷川良信』(シリーズ福祉に生きる 24 大空社)、『近世の念仏聖無能と民衆』(吉川弘文館)、『念仏者の福祉思想と実践』(法蔵館)、『仏教福祉の考察と未来』(国書刊行会)、『長谷川良信の生涯』(淑徳選書 7 淑徳大学長谷川仏教文化研究所)ほか

## 長谷川善治 略年譜 (◎は弟・良信)〈参考〉

1888. 茨城県西茨城郡(現・笠間市)生れ。病弱の父、家出する母、早逝する兄弟の中、若年より行商や会社経営で家を支えながら、貧家子弟の教育に情熱を注ぐ。

〈1892. 黒岩涙香『萬朝報』創刊〉

1905 (18 歳). 日比谷公園焼打ち事件に加わる。

1911 (24 歳). 雑誌『茨城萬報』刊行、日立鉱山煙毒事件追及で新聞紙法違反、罰金刑。◎良信：マハヤナ学園創立(1919)。〈シベリア出兵〉

1920 (33 歳). 12 月、シベリアへ渡る(～翌年 1 月)。

1921 (34 歳). 水戸中学校同盟休校(ストライキ)事件、檄文撒布を図るが警官に阻止される。衆議院議員、水戸市議会議員選挙に立候補するが落選、対立候補策動で収監される。〈1923 関東大震災〉

1925 (38 歳). 『常野毎日新聞』発刊。

1926 (39 歳). 自叙伝『小説 発売禁止』刊行。

1928・昭和 3 (41 歳). 萬朝報社社長となり、以後『萬朝報』紙上で政治・経済・社会・教育等に“火を噴く”言説を展開(数度の“発禁”)、また諸社会事業、無産者のための病院設立、新聞人のための事業等を旺盛に企画展開。◎良信：1929.4『萬朝報』主筆となり社会事業他多角的に論説を発表(～31 年 9 月)。

1930 (43 歳). ロンドン軍縮会議(良信・主筆として随伴)、台湾霧社事件、朝鮮間島問題に社員派遣。〈昭和恐慌〉◎良信：財団法人大乗学園設立(1931)。〈満洲事変〉

1934 (47 歳). 『維新の快挙と水戸思想』編集発行。

1935(48 歳). 水戸に青年修養道場「天農義塾」開設。『皇国日本の国体に鑑み、信仰政治の国策を提唱す』刊行。

1936(49 歳). 萬朝報社社長辞任。〈1940.『萬朝報』廃刊〉

1941・昭和 16. 病没(54 歳)。

◎良信：1965. 淑徳大学創立。1966・昭和 41. 遷化(76 歳)。

### 〈本書概要〉

\* 詳細目次はホームページに掲載

#### 補章

『萬朝報』主筆在任中の長谷川良信の言説 昭和四〇六年中頃社説「言論の言説／主筆・長谷川良信が掲げる「萬朝報の精神」／「ロンドン軍縮会議」応援団としての参加

#### 三

反骨の新聞人・長谷川善治の実践思想 覚書

善治の生得的思想性／「水戸学」の思想的影響／自著『皇国日本の国体に鑑み、信仰政治の国策を提唱す』腐敗せる官民等の戒心を求むにみる「天道自然」等の意味するもの

#### 二

反骨の新聞人・長谷川善治の生涯 社会運動と弟・良信との関わり

長谷川善治の『萬朝報』社長時代の言説と行動 昭和五年元朝における社長善治の演説と萬朝報社の事業計画／社長善治の火を噴く言説と行動